

# 沖縄らしい緑豊かな景観の維持に向けて

—樹木病害虫の現状とその対応—

亜熱帯性の温暖な気候である沖縄県には、多様な樹木が生育し、緑豊かな景観を形成しています。

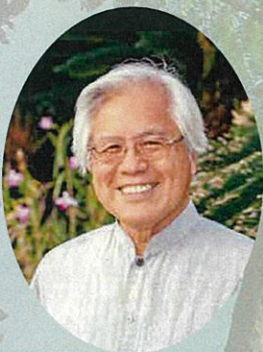
しかし、近年の地球規模の異常気象や温暖化、人物の移送の活性化などにより、新たな病害虫の侵入や既存の病害虫の再燃が懸念されています。

沖縄らしいみどりを守ろう事業では、平成24年度から「保全対策検討委員会」を設置し、主要病害虫に対する防除効果の検証や被害への対応を検討してきました。

シンポジウムでは、沖縄のみどりの重要性や県内外における事例についてご講演頂くとともに、これまで検討してきた内容について報告し、沖縄のみどりの重要性、直面する課題やその対応策について考えます。

## ● 基調講演 「沖縄の緑化の変遷」

花城 良廣〔一般財団法人 沖縄美ら島財団 理事長〕



近年における沖縄の都市緑化は、日本復帰を記念して開催された沖縄国際海洋博覧会を機に本格的に始まりました。その後も緑化植物の需要は高まりましたが生産量が少なく、山採りや県外からの導入を余儀なくされました。また緑化植物に関する情報が乏しく、試行錯誤の期間が続きました。結果として、沖縄の道路緑化率は全国平均の約5倍で全国のトップです。しかしながら現在の沖縄の道路緑化に緑量は感じられません。

今後の沖縄の気候風土に合った緑化を考えましょう。

## ● 特別講演 「人と自然との関わりの中での病害虫管理」

黒田 慶子〔神戸大学大学院 農学研究科 教授〕



里山は薪や肥料採取の場として利用されてきましたが、約半世紀前から放置され、本州では伝染病ナラ枯れが広がりました。病原菌の媒介昆虫がナラ類やシイ・カシ類の大木で繁殖しやすいためです。人間が管理してきた森は放置しても原生林には戻らず、バランスが崩れるのです。

また、外国の植物や昆虫などの導入・侵入も思いがけない影響が出ます。私たちの周りの自然環境を維持するには、人と樹木、昆虫や微生物など多くの生物の相互関係を理解して対応する必要があります。



日時: 平成29年1月25日(水) 14:00~17:15

場所: 那覇市ぶんかテンプス館 4F テンプスホール(入場無料)

## ● 基調講演 「沖縄の緑化の変遷」

花城 良廣〔一般財団法人 沖縄美ら島財団 理事長〕

## ● 特別講演 「人と自然との関わりの中での病害虫管理」

黒田 慶子〔神戸大学大学院 農学研究科 教授〕

## ● パネルディスカッション

コーディネーター  
牧野俊一〔(国研) 森林総合研究所 専門研究員〕

## パネリスト

花城 良廣 黒田 慶子  
亀山 統一〔琉球大学 農学部 助教〕  
喜友名 朝次〔沖縄県 森林資源研究センター〕



【主催】沖縄らしいみどりを守ろう事業  
保全対策検討委員会/  
沖縄県農林水産部森林管理課

【事務局】日本工営株式会社  
TEL 098-857-0919  
担当: 福島・與・迫田

沖縄のみどりを守ろうシンポジウム  
沖縄らしい緑豊かな景観の維持に向けて  
—樹木病害虫の現状とその対応—